

Aminodeoxykanamycin の臨床使用経験

堂野前維摩郷・立花暉夫 秋田芳弥・荒武和彦 小林芳夫 川本浩康

大阪府立病院

最近わが国において開発された抗生物質アミノデオキシカナマイシンの臨床使用経験について報告する。

I. 研究対象および方法

観察対象はすべて 10 才ないし 72 才の入院患者で総数 28 例であるが、その内訳は呼吸器感染症例、尿路感染症例、生検時の感染予防投与例、副鼻腔炎手術後の投与例である。投与方法は、大部分の症例では 1 日 1 回 200 mg 筋注であるが、肺化膿症例の 2 例では 1 日 400 mg を分 2 回筋注とし、気管支拡張症、肺気腫兼呼吸器感染の 2 例は 1 日 200 mg を分 4 回吸入 (IPPB にて) とした。投与期間は、大部分の症例では 1 週間であったが、肺化膿症の 2 例は 3 カ月にまで及んだ。長期投与の 2 例は、検血、検尿、肝機能、腎機能検査と共に audiometry による聴力検査も行なつた。病原菌の KM 感性検査は、昭和ディスクを用い、1 濃度法で行なつた。

II. 研究成績

1) 使用効果

呼吸器感染症、尿路感染症、計 18 例の治療成績は、表 1 のとおり、著明改善 6 例、改善 11 例、無効 1 例であつた。著明改善 6 例中 2 例は肺化膿症例で、胸部レ線像の著明改善ないし透亮像の消失が印象的であつた。無効の 1 例は、KM 感性のない *Staph. aureus* による尿路感染症であり、しかも糖尿病、リウマチ様関節炎の合併したという不利な条件を有する症例であつた。

生検時の感染予防の目的で使用した症例は、表 2 のとおり、全例有効であつた。

副鼻腔炎手術後の使用 5 例については、表 3 のとおり、全例有効であり、対照の CP 投与の場合と比較して同様の効果を認めた。

2) 副作用

臨床所見および各種検査成績から見て、副作用を認め

表 2 アミノデオキシカナマイシンによる生検時の感染予防経験

患者	性	年齢	臨床診断	実施した検査	投与方法 1日投与量 投与期間	感染予防効果	副作用
1	♀	10才	サルコイドーシス	腹腔鏡, 肝生検	100 mg×1, 1 週	あり	なし
2	♂	27才	サルコイドーシス	同上	200 mg×1, 1 週	あり	なし
3	♀	22才	サルコイドーシス	同上	200 mg×1, 1 週	あり	なし
4	♀	22才	サルコイドーシス	斜角筋部リン巴節生検	200 mg×1, 1 週	あり	なし
5	♂	67才	肺癌, 胃潰瘍	同上	200 mg×1, 1 週	あり	なし

表 3 副鼻腔炎手術時におけるアミノデオキシカナマイシンの使用経験

患者	性	年齢	臨床診断	投与方法 1日投与量 投与期間	効果	備考	副作用
1	♀	37才	副鼻腔蓄膿症	200 mg×1, 3 日	有効	術後発熱その他の感染症状防止効果を認む	なし
2	♀	20才	副鼻腔蓄膿症	200 mg×1, 3 日	有効	〃	なし
3	♂	43才	副鼻腔蓄膿症	200 mg×1, 3 日	有効	〃	なし
4	♂	55才	副鼻腔蓄膿症	200 mg×1, 3 日	有効	〃	なし
5	♀	19才	副鼻腔蓄膿症	200 mg×1, 3 日	有効	〃	なし

(註) 観察方法: すべて両側の手術例であるが、1 側の手術後 CP 毎日 1 g ずつ 3 日間対照の意味で投与し、数回後他側の手術を行なつた後には、アミノデオキシカナマイシン 200 mg ずつ 3 日間投与した。こうして両者の場合の術後の発熱、疼痛などの感染症状の出現の有無を比較観察した。

表1 アミノデオキシカナマイシンの諸種感染症に対する治療成績

	患者	性	年齢	臨床診断	病原菌	KM 感性	投与 方法 1日 投与量	投与 期間	効果	備 考	副作用
呼吸器 感染症	1	♀	64	肺化膿症	<i>Morganella</i> <i>α Strept.</i>	卅 —	200mg×1, 1週 200mg×2, 3ヵ月		著明 改善	胸部レ線像著明改善 赤沈値, 白血球正常 化, 平熱化, 菌消失 自覚症状消失	検血, 検尿, 肝機能, 腎機 能など異常な し, audiogram 異常なし
	2	♂	72	肺化膿症, 肺結 核症			200mg×1, 1ヵ月 200mg×2, 2ヵ月		著明 改善	胸部レ線像著明改善 赤沈値改善, 白血球 数正常化, 激しい咳 嗽消失	同上
	3	♀	45	呼吸器感染, 転 移性肺癌	<i>Kleb. pneum.</i>	卅	200mg×1, 1週		改善	喀痰中菌消失, 激し い咳嗽減少	なし
	4	♀	65	慢性気管支炎	<i>Staph. epid.</i>	卅	200mg×1, 1週		改善	咳嗽, 軽度呼吸困難 微熱など消失	なし
	5	♂	53	気管支拡張症	<i>Staph. aur.</i>	—	200mg, 分4回吸入	3日	改善	咳嗽, 喀痰減少	IPPB 吸入に よる気管支粘 膜刺激なし
	6	♂	63	呼吸器感染, 肺 気腫, 気管支喘 息			200mg, 分4回吸入	1週	改善	膿性喀痰減少, 喘息 発作著減	同上
尿路 感染症	7	♀	27	膀胱炎, 絨毛上 皮腫肺転移	<i>E. coli</i>	卅	200mg×1, 1週		著明 改善	尿中菌消失, その他 の尿異常所見正常化	なし
	8	♀	45	尿路感染, 転移 性肺癌	<i>E. coli</i> <i>Kleb. preum.</i>	卅 卅	200mg×1, 1週		改善	尿中 <i>Kleb. pn.</i> 消失, <i>E. coli</i> 残存, その他 の尿異常所見改善	なし
	9	♂	60	尿路感染, 前立 腺結石, 高血圧 症	<i>Cloaca</i>	卅	200mg×1, 2週		改善	尿中白血球著減	なし
	10	♀	62	尿路感染, 腹部 腫瘍	<i>E. coli</i>	卅	200mg×1, 5日		著明 改善	尿中菌消失, その他 の尿異常所見改善, 38℃発熱の平温化	なし
	11	♂	44	尿路感染, 脳卒 中	<i>Staph. epid.</i> <i>Cloaca</i>	— —	200mg×1, 1週		改善	尿中 <i>Cloaca</i> 消失, <i>Staph. epid.</i> 残存, そ の他尿所見改善	なし
	12	♀	62	尿路感染, SMON	<i>E. coli</i>	卅	200mg×1, 1週		著明 改善	尿中菌消失, その他 の尿所見改善	なし
	13	♀	40	膀胱炎, 絨毛上 皮腫肺転移	<i>E. coli</i>	卅	200mg×1, 1週		著明 改善	尿中菌消失, 尿中白 血球減少	なし
	14	♀	50	尿路感染, 腎炎	<i>E. coli</i>	卅	200mg×1, 1週		改善	38℃発熱の解熱, 尿 中白血球減少	なし
	15	♀	71	尿路感染, 子宮 癌術後, 直腸膀 胱転移	<i>E. coli</i>	卅	200mg×1, 1週		改善	白血球増多の正常化 尿中白血球減少	なし
	16	♀	41	尿路感染, SMON	<i>Kleb. pn.</i>	卅	200mg×1, 1週		改善	尿中白血球減少, <i>Kleb. pn.</i> 消失, <i>Staph.</i> <i>aur.</i> (KM 耐性) 出現	なし
	17	♀	59	尿路感染, 脳卒 中後	<i>Staph. epid.</i>	卅	200mg×1, 1週		改善	尿中白血球減少	なし
	18	♂	65	尿路感染, 糖尿 病, リューマチ 様関節炎	<i>Staph. aur.</i>	—	200mg×1, 1週		不変	尿中菌消失せず, 尿 中白血球数不変	なし

(註) 著明改善: 臨床症状または所見の改善ならびに菌消失, 改善 臨床症状または所見のみの改善

たものは皆無であつた。そのうち3ヵ月に及ぶ比較的長期投与の2例において, 血液および尿所見, 肝機能, 腎機能に異常を認めず, ことに audiogram 所見は3ヵ月

の投与後も不変であつた。また本剤吸入による気管支粘膜刺激症状も認められなかつた。

III. ま と め

アミノデオキシカナマイシンは諸種感染症に対し、少量投与によるも相当有効であり、また生検その他外科的処置時の感染予防にも役立つ。

投与方法としては、筋注のほか吸入による投与も安全かつ効果的であつた。

以上、われわれの現在までの臨床経験から見て、本剤は相当有効な抗生剤であると思われる。

CLINICAL EXPERIENCE WITH AMINODEOXYKANAMYCIN

IMASATO DONOMAE, TERUO TACHIBANA, YOSHIYA AKITA, KAZUHIKO ARATAKE,
YOSHIO KOBAYASHI & YOSHIYASU KAWAMOTO
Osaka Prefectural Hospital

1. Eighteen patients with respiratory or urinary infections were treated with aminodeoxykanamycin (abbr. AKM) in small daily dosage of 200 mg to 400 mg. AKM was administered in most cases by intramuscular injection, and also could be administered in some cases by inhalation without any side effect. AKM showed fairly effective therapeutic results in these cases, and any side effect was not found.
2. AKM was also effective to prevent the infection at the various biopsies and other surgical procedures in 10 cases.
3. From our clinical experience, we may conclude that AKM is a fairly effective antibiotic.